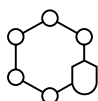


IBM i 7.5

ワンステップ上の単純化された統合により、
高度なテクノロジーからさらに多くの価値を
獲得できます



新しいパスワード暗号化の
実装によりセキュリティを
向上



Integrated Web Services
REST APIエンジンを改良



データベース・ユーザー向け
にさらに高機能で使いやすい
ツールを提供

現在は、デジタル・リインベンション、人工知能、モバイル・コンピューティング、そして分析の時代であり、ITについての意思決定の重要性はかつてないほどに高まっています。最新のハイブリッドクラウド・インフラストラクチャー向けの基盤としてIBM Power®サーバーで稼働するIBM iオペレーティング・システムを選択することで、確実に重要なテクノロジーを利用することができます。企業は、自社のシステムとビジネス・プロセスが、事業単位で定義された最高サービス・レベルを満たしていると同時に、新たなビジネス要件と商機に対応できる適合性を備えているかを把握しなければなりません。

IBM i® 7.5は、IBM iオペレーティング・システムの最新のリリースです。IBM i 7.5には、数多くの基本オペレーティング・システムの構成要素やIBM iポートフォリオのライセンス・プログラム製品の強化された機能が含まれています。セキュリティ機能強化、アプリケーション開発ツール、システム管理者機能などの新機能があります。IBM i 7.5は、POWER9™とPower10のテクノロジー・ベースのプロセッサを搭載した一部のIBM Powerサーバーでサポートされています。旧バージョンのプロセッサを搭載したサーバーを使用しているお客様がIBM i 7.5の機能を活用するには、新しいシステムに移行する必要があります。



新しいパスワード暗号化の実装によりセキュリティを向上

新しいパスワード暗号化スキームにより、ユーザーはセキュリティ・レベルを高められます。これは、パスワード・レベル (**QPWDLVL**) コマンドを4に設定すると実装されます。新しいAPIを使用すると、パスワード適合性確認 (**QSYCHKPR**) コマンドにより、ユーザーまたはパスワード管理ツールで、値がその企業が設定した構成済パスワードの規則を満たしているのか事前に判断することができます。IBM i 7.5向けのService Tools CLも強化されています。新しいSSTセキュリティ属性が追加され、QIBM_QSY_VLD_PASSWRDとQIBM_QSY_CHK_PASSWRDの出口ポイントから、パスワード出口プログラムを追加または削除できるかどうかを示されます。この属性は、SST内で設定することも、SSTセキュリティ属性変更 (**CHGSSTSECA**) コマンドを使用して設定することも可能です。SSTユーザー属性の「パスワード満了間隔」は、サービス・ツール・ユーザーID (**CRTSSTUSR**) コマンドとサービス・ツール・ユーザーID変更 (**CHGSSTUSR**) コマンドを使用して設定することができます。その他のSSTセキュリティ属性の多くも**CHGSSTSECA**コマンドを使用して設定することができます。さらに、IBM i 7.5にはDigital Certificate Manager機能が標準装備されています。複数の機能拡張により、ユーザー体験が向上し、基本セキュリティ・コンポーネントにさらに機能が追加されています。

Integrated Web Services REST APIエンジンを改良

IBM i 7.5では、パラメーター数を248に増やし、Access Client Solutionsログイン機能をはじめとするIWSログインのアップデートといった、Integrated Web Services Rest APIエンジンに対する重要な機能が拡張されています。顧客ベースの開発ツールの動作を向上させるために、プログラムとサービス・プログラム・オブジェクト向けの作成および更新コマンドで、イベント・ファイル内にコマンド完了情報を提供できます。この情報は、コマンド完了状況を提供するために、問い合わせを行うことができます。IBM i向けの新しい市場の多くをサポートするために、CCSIDの範囲を拡大させました。IBM i 7.5の呼び出し (**CALL**) コマンドと呼び出しバインド・プロシージャラー (**CALLPRC**) コマンドは、式をパラメーターとして渡し、各パラメーターのタイプと長さの指定が可能になりました。IBM i 7.5は、アトミック・メモリー・アクセスのための新しいILE C/C++組み込み関数を備えています。複数スレッドを備えたプログラムで、1つのスレッドの中のデータを自動で安全に変更する関数を使用できます。別のスレッドから妨害を受けることはありません。

データベース・ユーザー向けユーザーにさらに高機能で使いやすいツールを提供

IBM® Db2® for iは、IBM i 7.5を使用してウェブ・サービスを公開または消費するためのHTTP要求向けの追加機能を備えています。今回リリースされたDb2 for iでは、データベース・エンジニア向けのさらに高機能で使いやすいツールをご利用いただけます。IBM iサービス、IBM iオブジェクトへのアクセスを増加させるための戦略的な方式、システム情報などが拡張され、IBM iコマンドやAPIに対する便利なSQLベースの代替手段を提供しています。Db2 for iでは、SYSTOOLSスキーマ内の作業例とツール数が増えました。

まとめ

IBM i 7.5では、オペレーティング・システムやライセンス・プログラム製品などのIBM iポートフォリオのあらゆる面でアップデートが実行されたことが発表されました。IBMでは、IBM iのコア・ミドルウェア・コンポーネントと一緒に事前開発し、十分にテストし、プリロードしています。これに対して、他のプラットフォームでは、オペレーティング・システム、データベースおよびミドルウェアの統合はお客様のデータ・センターで実行されます。IBM iのファクトリー統合およびテストは、企業がアプリケーションを迅速に導入し、少ない人員で維持するための重要な要素となっています。ワークロード管理をはじめとする標準装備の仮想化により、お客様はIBM iの単一のインスタンス内で複数のアプリケーションを同時に実行することが可能になります。これにより、システム使用の効率性が向上し、IT環境が簡素化され、ITの投資効果が高まります。お客様が、IBM iとIBM Powerでビジネスを稼働させることを選択する場合、その重要な要因として総保有コストの削減を挙げています。

詳細情報

IBM i 7.5の詳細は、IBM担当員またはIBMビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、ibm.com/jp-ja/it-infrastructure/power/os/ibm-iをご覧ください。

© Copyright IBM Corporation 2022

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

2022年8月

IBM、IBMのロゴ、Db2、IBM Power、IBM Power9は、米国および/またはその他の国における International Business Machines Corporationの商標または登録商標です。その他の製品名およびサービス名は、IBMまたは他社の商標である可能性があります。IBMの最新商標リストについては、[ibm.com/trademark](https://www.ibm.com/trademark)をご覧ください。

本書は最初の発行日時点における最新情報を記載しており、IBMにより予告なしに変更される場合があります。IBMが事業を展開しているすべての国で、すべての製品が利用できるわけではありません。

本書の情報は「現状有姿」で提供されるものとし、明示または暗示を問わず、商品性、特定目的への適合性、および非侵害の保証または条件を含むいかなる保証もしないものとします。

IBM製品は、IBM所定の契約書の条項に基づき保証されます。

